

2006 年（平成 18 年）の世界の天候（速報）

- 年平均気温は多くの地域で平年を上回り、年の後半にはアジアからヨーロッパにかけて異常高温が多発。
- オーストラリア南東部や中国、米国中部では少雨傾向。
- 主な気象災害は、中国南東部の台風被害、フィリピンやアフリカ東部の大雨、ヨーロッパの寒波や熱波、オーストラリアの干ばつなど。

2006 年の年平均気温は、シベリア中部、オーストラリア沿岸など一部で平年を下回りましたが、ほかの多くの地域では平年を上回りました（図 1）。特に年の後半にはアジアからヨーロッパにかけて異常高温が多発しました。年降水量は、インドやオーストラリア北部で平年より多くなりましたが、中国、米国中部、オーストラリア南東部では平年を下回りました（図 2）。オーストラリア南東部では 6 月以降に異常少雨が多く発生しました。

各国の気象機関の資料及び報道資料等からまとめた主な気象災害は以下のとおり（図 3）。

- ① **中国の台風（4～8 月）** 台風第 1 号、第 4 号、第 5 号、第 6 号、第 8 号が、中国南東部に相次いで上陸し、合わせて 1400 人以上の死者が伝えられた。
- ② **日本～朝鮮半島の大雨（7 月）** 梅雨前線の大雨により死者・行方不明者が、日本で 30 人となり、韓国でも 60 人以上と報じられた。
- ③ **フィリピンの地滑りや台風（2 月、5 月、9～11 月）** レイテ島で 2 月にラニーニャ現象等の影響により大雨が発生し、大規模な地滑りにより 1000 人以上が死亡したと報じられた。また、5 月以降にフィリピンに接近・通過した台風のうち、第 1 号、第 15 号、第 19 号、第 21 号により合わせて 600 人以上の死者が伝えられた。
- ④ **ヨーロッパの寒波（前年 12 月～1 月）** 北極方面からの寒気が入りやすく、前年 12 月中旬から 1 月末にかけてたびたび低温に見舞われ、ロシアやヨーロッパ東部で合わせて 1000 人以上の死者が伝えられた。
- ⑤ **ヨーロッパの熱波（6～7 月）** 偏西風の蛇行に伴う暖かい高気圧が停滞した影響で熱波が発生し、ヨーロッパ中部を中心に合わせて 1900 人以上の死者が報じられた。
- ⑥ **アフリカ東部の大雨（8～11 月）** エルニーニョ現象等の影響により、エチオピアで 8 月上旬から中旬の洪水で 800 人以上が死亡し、その後、ソマリア、ケニアなどでも大雨や洪水が繰り返し発生して、11 月だけでもアフリカ東部で合わ

せて 250 人以上が死亡したと伝えられた。

- ⑦ **米国の熱波（7～8月）** 偏西風の蛇行に伴う暖かい高気圧の影響で、米国西部は7月に、北東部は8月に熱波に見舞われ、カリフォルニア州、ニューヨーク市などで合計 180 人以上が死亡したと報じられた。
- ⑧ **オーストラリアの干ばつ（年後半）** エルニーニョ現象等の影響により、オーストラリアでは5年以上続く干ばつに加え、8月以降の降水量が史上最少となり、小麦の収穫量は 2005 年の 4 割弱と伝えられた。

なお、気象庁では、週・月・季節・年毎に世界の天候や気象災害の資料をまとめ、気象庁ホームページに掲載しています（<http://www.data.kishou.go.jp/climate/monitor/index.html>）。ただし、特に被害状況などは月や季節のデータをまとめた時点の速報で、ここに記した値と異なることがあります。

[この件に関する連絡先：気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課 03-3212-8341 内線 3157]

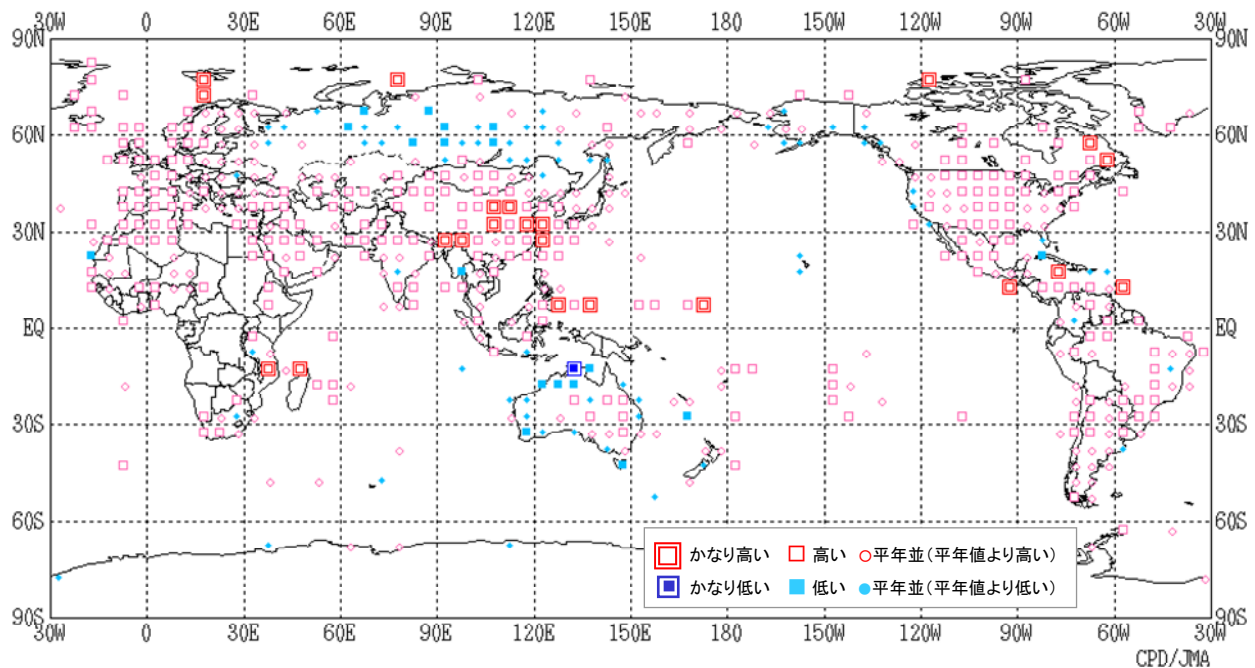


図1 平均気温階級分布図（2006年1月～11月）

二重の四角は10年に1回程度（かなり高い・低い）の階級、小さな四角は3年に1回程度の「高い（低い）」の階級を示す。各月・各地点の平均気温平年差をその月の標準偏差で割った値を1月から11月まで平均し、さらに緯度経度5度ごとの格子で平均して図に表した。

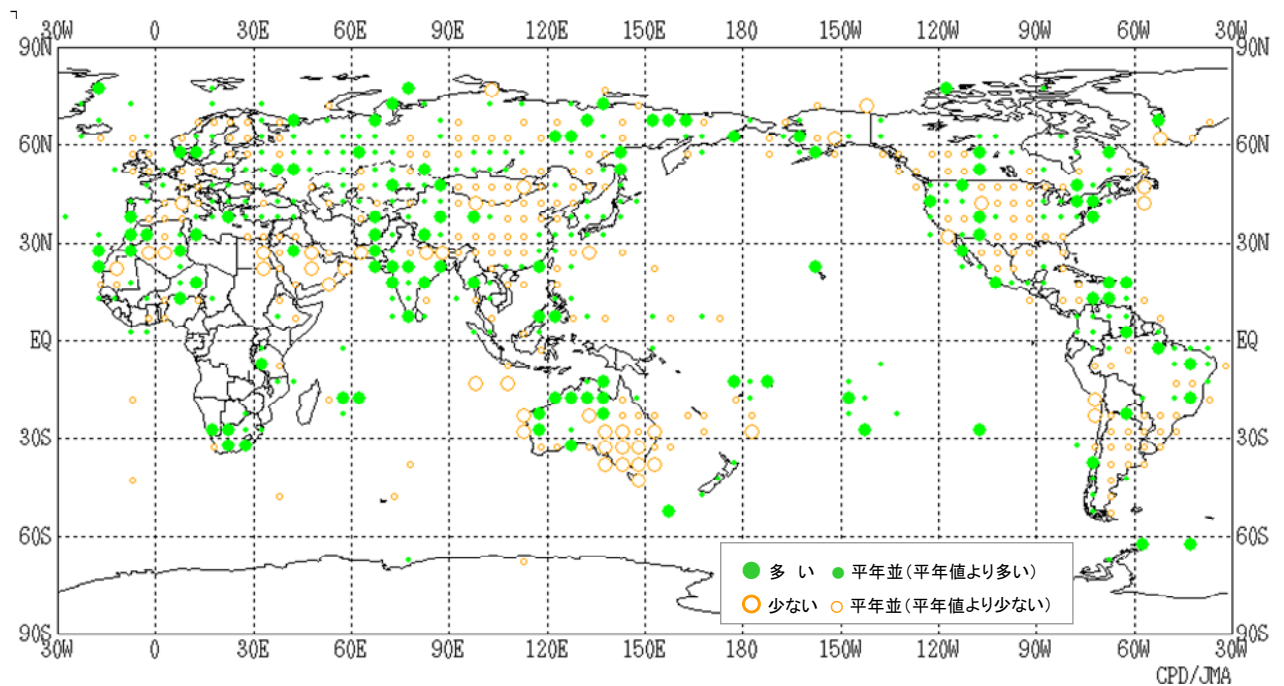


図2 降水量階級分布図（2006年1月～11月）

緑とオレンジの大きな丸が3年に1回程度の多雨（少雨）を示す。各月・各地点の11か月降水量平年比を緯度経度5度ごとの格子として図に表した。

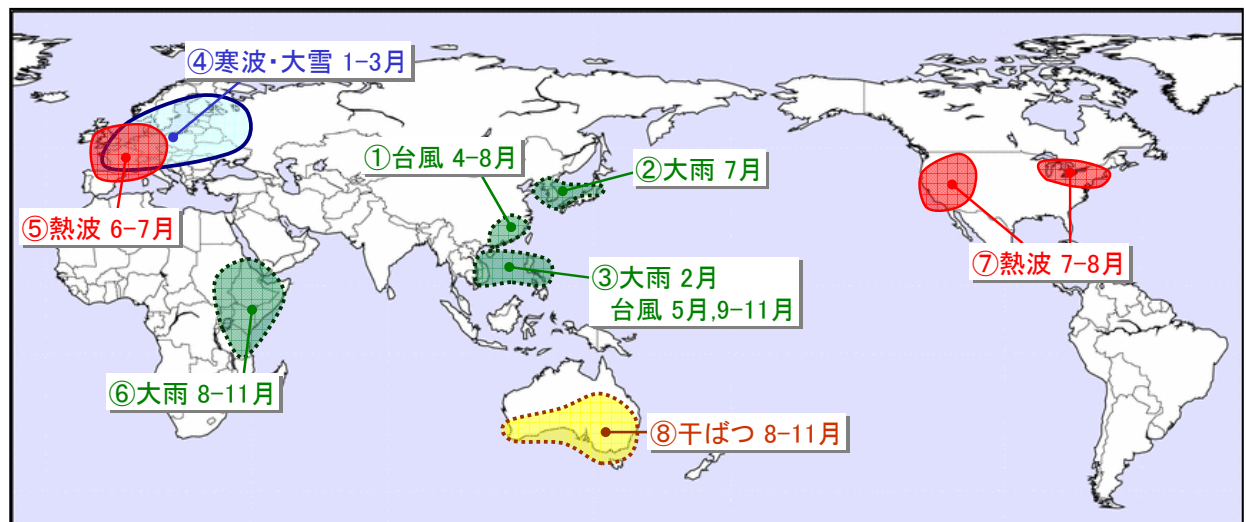


図3 世界の主な気象災害（2006年1月～11月）

世界の気象災害のうち、規模や被害が比較的大きかったものについて、おおよその地域・時期を示した。